

公益社団法人 NEXT VISION 2023年度事業計画

2023.2

1

Our Mission

**情報障害者をゼロにする
失明しても失望をさせない**

視覚障害者をはじめとした
情報へのアクセス障害を持つ人々が
Well Beingな状態（**自分らしさ**）を取り戻すため
に
必要な**情報**を入手や検索できない状態を無くし
Well Beingな社会（誰も取り残さない）の創出

2

1

課題 支援環境

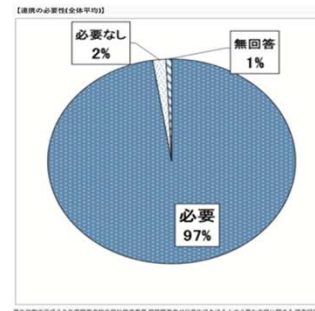
97%が連携の必要性あり

厚労省の報告によると組織連携の必要性を質問した調査

支援施設に**たどりつけない**

たどりつくまでの**時間を要す**

必要な情報を受け取れず**失望**



👉 **ワンストップの包括的な情報提供の場**
リアル（偶発性）、オンライン（アクセス性）

3

課題 職場環境

企業：
障害者への就労提供義務
合理的配慮の提供義務

障害者雇用促進法

雇用が難しい障害種別：

視覚障害 79.9%

精神障害 70.9%

知的障害 58.7%

独立行政法人高齢・障害者雇用支援機構 障害者職業総合センター
2008

👉 **視覚障害者の就労の機会・可能性の拡大**

4

市場

視覚障害者人口：約**31.2万人**

厚生労働省の調査（視覚障害の身体障害者手帳所持者数）

国内視覚障害者の人口：

2007年 約164万人（矯正0.5未満）

LV者 144万9千人、社会的失明者 18万8千人（0.1未満）

2030年 **200万人**

日本眼科医会 2007年 推定値

 **LV者、軽度視覚障害者への情報提供**

5

視覚障害のコスト （日本,2007）

直接経済コスト：実際に医療費（など）としてかかるもの

- 医療費＋介護保険料＋視覚関連研究費＝ **1兆3,382億円**

間接経済コスト：視覚障害による生産性の低下や社会によるケアのコスト

- 生産性低下（雇用率低下、欠勤、早死、課税収入減など）＋社会によるケア（公的年金、手当、視覚障害施設費用、補装具、地域ケアなど）＋死荷重（政府が税収減を補うために他に課税することによる市場の歪み、非効率分）
＝ **1兆5,835億円**

疾病負担コスト：視覚障害によるQOLの低下（個人の負担）

- DALYs × VSLY（Value of Statistical Life Year）
＝ **5兆8,636億円**

計 **8兆7,854億円**

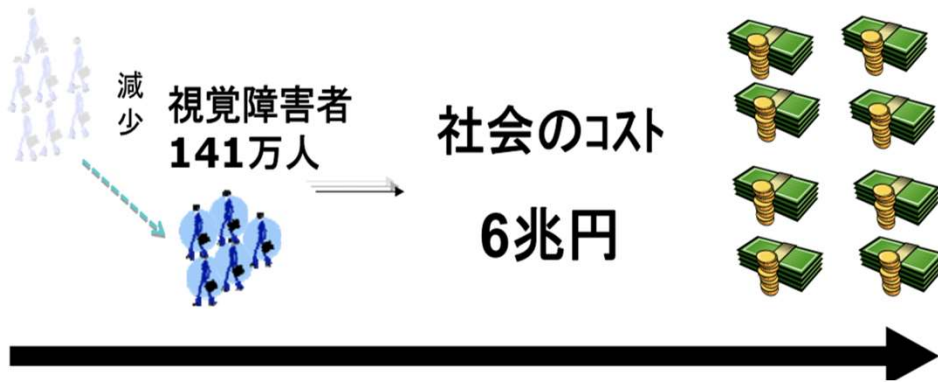
日本眼科医会は2007年の推定値

6

2030年 (30%視覚障害者を減らすことができれば)

対策

- ・予防や早期診断に対する国民意識の向上
- ・より積極的な治療、ロービジョン・ケア
- ・新しい研究やテクノロジーの導入



7

継続的なシステム作り

- ・寄付者へのリターンの自動化・徹底

- 1) お問い合わせ（一枚スライド作成）
- 2) 感謝（Thank you mail）
- 3) 報告（成果報告＋お問い合わせ）

👉 支援者へ成果達成状況の情報提供

👉 継続支援への意欲維持の自動化

👉 スポット、継続者リスト作成

8

WB達成の目標値

次の5年にむけた、成果の可視化

ロービジョンケア：患者の自立を支援するケア

ナイチンゲールの看護覚え書、生命は生活により支えられ影響を受ける存在。

就学や就労などの実用的支援に加えて、芸術やスポーツなどの娯楽支援を加えた総合的な情報支援は、視機能の低下により人生の主体性を奪われた患者に、残存視機能を活用したライフスタイルの再建と自己効力感やアイデンティティの回復を導く。

5年間に、のべ7000名の対象からインタビュー調査等による定性・定量的評価ができる質的調査を実施し、効果的な行動変容の支援に至った起点となる共通因子を検索。また調査結果をもとにロービジョンケアに関する知識の不十分な眼科医でも安心して提供できる簡便な情報支援フロー等の構築を検討。

9



10

5

公1-2 当事者向け講座、セミナー事業 直接支援(個人への情報処方)
ビジョンパークチャンネル

- 担当：三宅
 - WHAT：遠隔での当事者、家族、支援者への情報提供
 - WHO：FB、YouTubeが閲覧可能な人
 - WHY：地域性による情報格差の軽減
 - WHEN：不定期、終了予定なし
 - WHERE：ビジョンパーク内及び外部貸会議室、zoomなど
 - HOW：公式Facebookでのzoomライブ配信および終了後動画アップ、著名人応援メッセージ、ICT情報、専門家対談等
 - HOW MANY：4－6回程度/年
 - HOW LONG（評価期間）：3ヶ月ごとの内容確認
- 成果目標：各動画の再生回数 500回以上
- 行動目標：最新のICT機器事情、当事者対談等多様な話題提供を、視聴者のフィードバックも踏まえて放送内容を検討する。HPや講演等での情報提供頻度強化

11

公1-2 当事者向け講座、セミナー事業 直接支援(個人への情報処方)
公2-3 講演、セミナー事業 間接支援(個人への情報処方)
研修

- 担当：仲泊・三宅・山田
 - WHAT：より良く生きるために必要な「生きるチカラ」に気づき、学ぶ。目が見えない・見えにくいだけでなく、すべての方がいつも自分に自信を持ち、活躍できるように就労や教育の枠にとらわれず、スポーツ・アートなどさまざまな分野のセミナーを開催する。
iPhoneやiPadを中心にICT活用法の最新情報や、開発者の想いに勇気をもらうセミナーを開催する。お一人お一人が苦手とすることを解消するためのリハビリテーションや社会参加に寄与するような有益な情報を発信する。
 - WHO：すべての方
 - WHY：個人・企業への情報ゼロの状態の軽減。
 - WHEN：終了予定なし
 - WHERE：ビジョンパーク、Zoom
 - HOW：それぞれの分野の専門家に依頼し、セミナーを開催する。
6. iPhone・iPad活用ラウンジ316,000（講師謝金：@12,000×12、雑費10,000、運営人件費A60,000、運営人件費B60,000、施設利用料42,000）
- HOW MANY：年間2,095人
 - HOW LONG（評価期間）：随時
- 成果目標：WBスコア改善
- 行動目標：参加者が必要とする情報を探るためにSNSを活用する。

12

公1-2 当事者向け講座、セミナー等 直接支援(個人への情報提供)
公1-3 相談、セミナー等 間接支援(個人への情報提供)
ネクストビジョン歌会

■担当：初瀬

■WHAT：・視覚障がいと短歌には深い関係がある。古くは平安時代前期の嵯峨の短歌作品が百人一首に残っている。

奈良時代の琵琶法師や盲女も、失明した気持ちや仕事に対する思いを短歌に記して残した。

短歌が日本の中心文化だった時代、苦しい気持ちや生活の苦勞を短歌作品に昇華することは人生のひとつの

答えだった。

その後も幽亭馬琴、堀保己一、北原白秋、柳原白蓮、明石海人などが失明後の世界を短歌作品にして残した。

太平洋戦争で失明した傷痍軍人たちは失明の世界を短歌に表現することで心を回復させ、生活に戻ってきた。

当講座では、視覚障がいの先人たちが残した短歌作品を紹介し、その精神を共有する。

また、参加者自身の気持ちを文言化し短歌作品に昇華させる事で、気持ちを整理したり前進させることを

目的とする。

■WHO：参加者募集：10～20名

■WHY：潜在的な視覚障害者のカミングアウトを促し、インクルーシブな社会の実現を目指す。

■WHEN：3回／年

■WHERE：ビジョンパーク、Zoom

■HOW：第1回ブレ歌会 歌会体験+短歌の面白さを知る。

第2回実作授業 参加者が短歌を詠む。

第3回ネクストビジョン歌会 参加者の短歌作品で歌会を行う。

■HOW MANY：動画視聴500人

■HOW LONG（評価期間）：随時

成果目標：WBスコア改善

行動目標：潜在視覚障害者の障害受容とカミングアウト

13

公1-3 当事者向け体験事業 直接支援(個人への情報提供)
Eスポーツ G1グランプリ

■担当：三宅

■WHAT：eスポーツ実施やゲームアクセシビリティの知識処方

■WHO：リアル・オンラインでの参加者（当事者・健常者含む）

■WHY：ゲームによる自己肯定感増進、コミュニケーション活性化、社会接続機会の増加による社会的・心理的回復

■WHEN：時期未定

■WHERE：ビジョンパークから配信またはオンライン開催

■HOW：ファミコンミニやスーパーファミコン、プレイステーション等のアクセシビリティ機能の紹介、活用事例発表、オンラインゲーム大会等

■HOW MANY：1、2回/年

成果目標：各動画の再生回数 500回以上

行動目標：障害種別を超えた参加者を集い、ゲームによる対話文化を作る。

14

公1-三 当事者向け体験事業 直接支援(個人への情報処方)
クライミング

- 担当：三宅・山田
- WHAT：アクティブエリアでの当事者への運動の機会処方
- WHO：アクティブエリアに訪問可能な人
- WHY：運動による健康増進、社会的・心理的回復
- WHEN：1～2回／年 ※定期開催についてはコロナ収束後に検討
- WHERE：オンライン（Zoom）
- HOW：クライミングの魅力を伝えるトークイベント（無料）を開催
- HOW MANY：1～2回／年
- HOW LONG（評価期間）：定期開催についてはコロナ収束後に検討
- 成果目標：WBスコア改善
- 行動目標：クライミングリアルイベント開催時の参加者誘導（興味の持続と新規開拓）

15

公1-三 当事者向け体験事業 直接支援(個人への情報処方)
視覚活用訓練

- 担当:仲泊
- WHAT:視覚活用訓練
- WHO:視覚障害当事者（特に視野障害を持つ人）
- WHY:視野障害支援のオプションが少ない。眼球運動と意識の持ち方により、視野欠損を自覚し、それまでに使っていなかった視野を有効活用できるようにする。病院の運転外来事業を情報提供の立場からサポートする。
- WHEN:通年
- WHERE:ビジョンパーク
- HOW:原田敦史理事を講師として、視野障害により損なわれた日常生活における動作を、より安全に効率よく行えるようになることを目標に眼球運動訓練等を行う。効果判定にはMNREADJによる読書速度と視線視野計による総合得点およびLVFAM等の日常生活アンケートを用いる。毎回3名を限度とした有料研修生を認める。
- HOW MANY:参加者4人/1回/月・研修生3人/1回/月

16

公1-四 カウンセリング事業 直接支援(個人への情報処方)
ロービジョンの集い

- 担当：山田
- WHAT：当事者、家族、支援者への情報提供、情報交換
ロービジョンの方の生活を多角的に支援するため、ロービジョンの方を対象とした座談会、相談会を開催し、社会資源の活用方法や補助具等に関する各種情報提供、同じ症状に苦しむ患者同士のコミュニケーションの場の提供等に取り組む。
- WHO：視覚障害のある方、その家族、支援者など
奇数月：10名程度×6回、偶数月：100名程度×6回
- WHY：情報ゼロの状態の軽減、相談機会の増加
- WHEN：毎月1回、終了予定なし
- WHERE：ビジョンパーク、オンライン（Zoom）
- HOW：さまざまなテーマで座談会形式による情報交換・共有を行う。
参加費無料。
- HOW MANY：12回/年
- HOW LONG（評価期間）：随時
成果目標：WBスコア改善
行動目標：最新の機器や方法についての情報を入手し、適時、必要とされる方へ情報を提供するために外部機関・団体との連携を密接に行う。

17

公1-四 カウンセリング事業 直接支援(個人への情報処方)
相談コーナーの運営

- 担当：山田
- WHAT：情報提供と相談。外部機関・団体への橋渡し。
- WHO：視覚障害のある方及びそのご家族など
- WHY：情報ゼロの状態の軽減、相談機会の増加、対面面談の価値、施設関連連携
- WHEN：通年、終了予定なし
- WHERE：ビジョンパーク
- HOW：患者団体・支援機関など連携機関に協力を依頼し、ビジョンパークでアウトリーチ活動を行っていただく。相談無料。
オンラインによるテクノロジー支援（iPad貸出）
- HOW MANY：100件/月 年間1200件
- HOW LONG（評価期間）：随時
成果目標：WBスコア改善
行動目標：支援機関・団体間の連携を深め、情報の共有を図り、必要な情報が適時提供できるように情報提供の質を高める。（連携機関・団体の勉強会開催など）

18

公1-四 カウンセリング事業 直接支援(個人への情報処方)
遠隔相談

- 担当：仲泊
- WHAT：遠隔支援サービス
一般眼科に通院する視覚障害者に対してテレビ電話を介して情報提供を行う。
- WHO：視覚障害のある方
- WHY：情報ゼロの状態の軽減、相談機会の増加
- WHEN：通年、30分／回
- WHERE：全国の高額寄付者の所属する眼科医療機関
- HOW：ロービジョンケア専門の眼科医と福祉専門家をテレビ電話で提供
- HOW MANY：40件/年

19

公1-六 研究開発事業 直接支援(個人への情報処方)
眼球運動異常による読書困難の色フィルターによる支援

- 担当：仲泊
- WHAT：眼球運動異常による読書困難の色フィルターによる支援
- WHO：読書困難を訴える方（小児を含む）
- WHY：適正な読書環境を提供するため
- WHEN：通年
- WHERE：ビジョンパーク、神戸アイセンター病院
- HOW：ビジョンパークを訪問した者、神戸アイセンター病院眼科LV外来等を受診した患者に対し、疾患に関する聞き取りとともに、眼球運動と読書速度を測定し、色フィルターによる改善が見られるかどうかについて検討する。中央市民病院のIRBを通した後に行う。
- HOW MANY：20件/年

20

公1-六 研究開発事業 直接支援(個人への情報処方)

視覚障がい者職域拡大プロジェクト 強みを生かす！視覚障がい者、活躍の場の拡大へ

■担当：仲泊

■WHAT：視覚障がい者職域拡大プロジェクト 強みを生かす！視覚障がい者、活躍の場の拡大へ

■WHO：視覚障害のある方

■WHY：一般会社に就労する視覚障害者の活躍の場を広げる必要がある（isee!workingAwards2022関連事業（石川さゆり氏：資生堂））

■WHEN：通年

■WHERE：ビジョンパーク・資生堂他

■HOW：資生堂との共同研究として、視覚障害者による営業のノウハウを蓄積する

■HOW MANY：2人/年

21

公1-六 研究開発事業 直接支援(個人への情報処方)

視野障害を有する者に対する高度運転支援システムに関する研究（運転外来）

■担当：仲泊

■WHAT：視野障害を有する者に対する高度運転支援システムに関する研究（運転外来）

■WHO：視野障害のある方

■WHY：運転を制限するだけでなく技術で問題を解決し、視野障害があっても安全に運転できるよう指導し、社会の理解を促す。

■WHEN：通年

■WHERE：ビジョンパーク他

■HOW：研究全般のサポート、啓発セミナー・イベントの企画

■HOW MANY：50人/年

22

公2-ニ コンテスト事業 間接支援(個人への情報処方)

視覚障害者による視覚障害者用住宅のインテリアデザインコンテスト

■担当：仲泊

■WHAT：視覚障害者による視覚障害者用住宅のインテリアデザインコンテスト

■WHO：視覚障害のある方

■WHY：視覚障害者にとって住まいの安全性と快適性にこだわったデザインが望まれている（iseelworkingAwards2022関連事業（滝浪明莉氏：東京医療専門学校視能訓練士科2年））

■WHEN：4～12月

■WHERE：ビジョンパーク他

■HOW：視覚障害者用住宅のインテリアデザインのあり方について、広く募集し、有識者による評価を行う

運営を超短時間就労（赤堀氏）の一環として外部との共同事業も検討中

■HOW MANY：10件以上のアイデアを比較する/期間終了までに

23

公2-ニ コンテスト事業 間接支援(個人への情報処方)

iseel Working Awards 2024

■担当：和田

■WHAT：ロービジョン者の社会参加を広く促進していくためには、ロービジョン者として入る社会の双方が、多くのロービジョン者が社会参加し、活躍していることを知ることで一歩と考える。そのため、ロービジョン者の活躍事例を集め、その事例をコンテストを開催し、発表、評価を行い、特に優れた事例を選出する。また、ロービジョン者が就労するためのアイデアも募集し、優秀なアイデアについて具体的な支援策を提示する。ロービジョン者の雇用および起業による活躍事例及びアイデアを、ロービジョン者と雇用者、医療機関、福祉施設等から募集し、特に広く社会に認知させる。また、選出された事例とアイデアは、ホームページや事例集の冊子で情報発信する。

■WHO：視覚障害者に関わる全ての市民

■WHY：視覚障害者に対する社会の理解が不十分で就労に困難さがあるため

■WHEN：応募期間：2023年7月～10月 発表式：2024年2月

■WHERE：東京

■HOW：（募集方法）ホームページや法人パンフレットで、目的、内容、募集方法について広く周知する。

（選考方法）医療、福祉、カウンセリングの各分野についての識見を有する専門家とロービジョン者等から構成される有識者会議を理事会決定の上設け、選考にあたる。

■HOW MANY：20件以上の優秀な事例とアイデアを発表

■HOW LONG（評価期間）：終了予定なし

成果目標：コンテスト応募件数のup、優秀事例紹介HPのカウンタースコアup及び優秀アイデアの事業化
行動目標：視覚障害者の就労に関する社会の意識を高めるためにコンテストの募集を広く呼び掛け、優秀な事例とアイデアを選考し、表彰イベントで発表するとともにHPや就労事例集の配布により広く周知を図り、アイデアの事業化を推進する。

24

公2-ニ コンテスト事業 直接支援(個人への情報処方)
サンキューカードを使った周知啓発

■担当：山田

■WHAT：サンキューカード制作と配布

ロービジョンの方の移動を多角的に支援するために正しいガイドの仕方を一般の方に周知するとともに、一人でも多く就労・就学で困っている視覚障害のある方を見つけ、必要な情報につなげる活動を視覚障害のある方にお手伝いいただき、活躍の場を広げる。

■WHO：視覚障害のある方

■WHY：視覚障害者自身によるロービジョンについての認知拡大

■WHEN：通年、終了予定なし

■WHERE：全国

■HOW：患者団体・支援機関のほか、配布を希望する視覚障害者にサンキューカードを配布し、視覚障害者は支援してくれた方にサンキューカードを直接手渡す。無料。

■HOW MANY：20,000枚/年

■HOW LONG（評価期間）：50枚/人配布完了時

成果目標：WBスコア改善

行動目標：サンキューカードそのものの認知拡大のため、SNS等を活用したPRを行う。また、全国に広げるため、視覚障害者に配布する機関・団体を20か所に増加する。

25

公1-ニ 当事者向け講座、セミナー事業 直接支援(個人への情報処方)
公2-三 講演、セミナー事業 間接支援(個人への情報処方)
被災視覚障害者支援・避難所疑似体験セミナー

■担当：仲泊・原田

■WHAT：被災視覚障害者支援・避難所疑似体験セミナー

■WHO：視覚障害者と一般

■WHY：視覚障害者の防災と視覚障害者の周囲における支援情報を増やすため

■WHEN：応募期間（2023年4月～）

研修期間（6～3月の日曜日9:30～12:30で全2回）

■WHERE：ビジョンパーク

■HOW：ビジョンパークを避難所に見立て、疑似体験をセミナーとして開催する。
スマートフォンによる読み上げアプリ・ナビタグとともに遠隔支援を活用した支援方法について検討する。

参加費有料・4000円

遠隔支援ガイド：アイコサポート・無料

■HOW MANY：4名 x 2回 = 8名

26

公2-三 講演、セミナー事業 間接支援(個人への情報処方)

ポイントマスター！ロービジョンケア外来ノート行間セミナー

- 担当：仲泊
- WHAT：ポイントマスター！ロービジョンケア外来ノート行間セミナー
- WHO：視能訓練士および眼科医
- WHY：視覚障害者の周囲におけるロービジョンケア関連情報を増やすため
- WHEN：応募期間（2023年2月～）研修期間（6～3月の第二水曜日18:00～19:30）
- WHERE：ビジョンパーク Zoom併用
- HOW：ポイントマスター！ロービジョンケア外来ノートの決められた範囲に関する話題で執筆者および外部講師によるロービジョンケアの勉強会を開催
参加費有料（通年会員のみ・昨年度の動画の閲覧可能）
各回とも一人の講師に10分で切り分けられる2本立ての講演を依頼
最初の30分は一昨年度のBasic編を編集して流す（ビジョンパークの広報を入れる）
講演部分はwebに限定公開する
講演講師：ポイントマスター！ロービジョンケア外来ノートの著者（外部所属8名）
- HOW MANY：60名 x 10 = のべ600名（2022年度実績）

27

公2-三 講演、セミナー事業 間接支援(個人への情報処方)

ロービジョン支援ホームページの運用

- 担当：仲泊・片山
- WHAT：ロービジョン支援ホームページの運用
- WHO：視覚障害に関心のある不特定多数の市民
- WHY：情報ゼロの状態の軽減。
- WHEN：24回/年
- WHERE：WEB
- HOW：ロービジョン支援ホームページ<http://www.shikakuriha.net>
の内容とリンクの更新
支援項目説明に動画とのリンクを設けることを計画中
内容検討ワーキンググループによる話し合いを定期開催
特に介護と育児、災害関係を充実化する ナビタグも
WGメンバー 和田・小林晶・別府・他外部委員若干名
- HOW MANY：1回程度/月

28

公2-三 講演、セミナー事業 間接支援(眼科医への情報処方)
日本眼科医会連携

- 担当：三宅
- WHAT：日本眼科医会会員への情報処方
- WHO：日本眼科医会会員
- WHY：眼科医のロービジョンケアの知識向上、NVの認知度向上
- WHEN：実施中
- WHERE：日本眼科医会HP内
- HOW：HP内でのロービジョンケア初心者の眼科医への手引き作成
 おすすめリンク、アプリ紹介情報の提供
- HOW MANY：適宜
- HOW LONG（評価期間）：年度ごとの情報確認
- 成果目標：ダウンロード数 会員数の50%以上

29

公2-四 晴眼者向け体験事業 間接支援(個人への情報処方)
視覚障害者体験VR研修

- 担当：三宅
- WHAT：VR体験で視覚障害者の困難さ、配慮を学ぶ
- WHO：健常者、支援者
- WHY：視覚障害者の困難さが見えにくく、理解されにくいために
 当事者の社会的、心理的回復を阻害因子となる
- WHEN：年数回
- WHERE：アクティブエリア
- HOW：VRによる当事者体験、その後合理的配慮研修
- HOW MANY：年3回開催
- HOW LONG（評価期間）：年度毎の開催頻度の見直し
- 成果目標：参加者の多様性理解促進
- 行動目標：開催までのFB等による告知

30

公2-四 支援者向け体験事業 間接支援(個人への情報処方)、継続支援企画
パッチアダムス招致企画 夢の病院からビジョンパークができるまで

■担当：三宅

■WHAT：ウェルビーイング医師パッチアダムスの哲学にケアの本質と対話法を学ぶ

■WHO：医療者、支援者

■WHY：未来医療に必要な困難者が社会的、心理的回復をする上で必要なマインドおよび対話スキルを学ぶ

■WHEN：研修依頼時

■WHERE：オンライン

■HOW：オンライン形式のワークショップ（1-3時間）

■HOW MANY：研修依頼時

成果目標：参加者の支援マインド・対話スキル向上、NVの認知向上

行動目標：年3回以上の開催

31

公2-四 支援者向け体験事業 間接支援(個人への情報処方)、継続支援企画
TEAM EXPO2025 共創チャレンジ企画 ナビゲーション・タグ(ナビ・タグ)で未来を変えるプロジェクト

■担当：山田

■WHAT：大阪万博でナビ・タグを実装することでDXに必要なアクセシビリティな考え方を醸成し、インクルーシブな社会の実現を目指す。

■WHO：市民

■WHY：障害の有無、人種（母国語）、年齢、性別に関係なくすべての人が便利に楽しく暮らせる街（スーパーシティ）づくりを通じて、視覚障害、視覚障害者に対する理解を深める。

■WHEN：2021年4月神戸アイセンター（2022年神戸市、2025年万博）

■WHERE：神戸、大阪

■HOW：神戸市、神戸市交通局、神戸新交通などを通じて普及する。

■HOW MANY：神戸アイセンター及び周辺で50か所にタグを設置

成果目標：SNS等を通じた広報活動、大阪万博での実装、アクセシビリティ理解

向上を通じた支援者増

■HOW LONG（評価期間）：毎月、2年後

32

公2-五 出版事業

『プライベートあい ～名探偵になってあげないゾ!～』出版プロジェクト

■担当：福場

■WHAT：小説あるいは漫画といった親しみやすい形で等身大の当事者を多くの人に感じてもらうこと、そして当事者の方には「視覚障害者だからこそ優れている能力がある」というバリアバリューに気付いてもらう。
作家：福場将太

■WHO：10代の若い世代（特に女子）

■WHY：視覚障害者の困難さが見えにくく、理解されにくいために当事者の社会的、心理的回復を阻害因子となる

■WHEN：毎月

■WHERE：オンライン

■HOW：「小説家になろう」に公開 <https://syosetu.com/>

■HOW MANY：9千人

■HOW LONG（評価期間）：9か月

成果目標：読者の多様性理解促進

行動目標：掲載を継続しながら出版社へ売り込み、逆に人気がある小説は出版社からアプローチがあるのでSNS等を駆使して宣伝。編集者の企画書作成。

33

収1 収益事業(個人への情報処方)
ビジョンプークを活かした情報発信

■担当：山田

■WHAT：ビジョンプークスペース利用
法人格の区別なく、登録された団体・企業等が視覚障害者支援や情報発信に関連するイベントを行う際にビジョンプークを使用する。

■WHO：登録された機関・団体

■WHY：情報ゼロの状態の軽減。

■WHEN：12回/年、終了予定なし

■WHERE：ビジョンプーク

■HOW：登録団体・機関からの提案を受けつけ、内容を精査した上でビジョンプークを有償にて貸し出す。

■HOW MANY：10～30人/回 年間120～360人

■HOW LONG（評価期間）：随時

成果目標：WBスコア改善

行動目標：登録団体・企業を誘致し、実際に使用する団体を増やす。

34

法人事業（活動資金調達、寄付者・賛助会員等フォロー）
みんなで作るビジョンパーク会議

■担当：山田

■WHAT：活動報告、意見交換
NEXT VISIONの事業、ビジョンパークの運営を自分事としてとらえ、一体感を持って運営に参加する。

■WHO：寄附者・賛助会員・企業パートナー

■WHY：寄附者・賛助会員の主体性の向上、共創感の向上

■WHEN：1. 大感謝祭1回/年、2. 交流会6回/年（高額支援者向け×2、企業向け×2回、その他×2回）、3. 神戸アイセンター病院での受付票ホルダー配布 通年 終了予定なし。

■WHERE：ビジョンパーク、Zoom

■HOW：1. 寄附・賛助会員・支援者への感謝を伝える会を開催し、意見交換を行う。
2. NEXT VISIONの活動を自分事としてとらえ、能動的に活動に参加する気持ちを高めるために交流会を開催。
3. 受付票を入れるホルダーにiseel運動や発信したい情報のチラシを挿入し、これまでつながりのなかった患者層の新規開拓を図る。
4. 会員管理アプリ運用
5. 募金箱制作

■HOW MANY：合計2,620人（1. 100名、2. 20名×6回、3. 200名×12か月）

■HOW LONG（評価期間）：随時

成果目標：WBスコア改善、行動目標：寄附者・賛助会員の支援継続100%

35

チーム特性

運営メンバーはiPS治療を行う臨床医としての高橋（眼科医）をはじめ、視覚障害者の社会研究の実践者である仲泊（眼科医）、就労現場や教育現場で多数の合理的配慮の実践事例を持つ三宅（眼科医・産業医）を中心に運営される。

また全盲の当事者でありテクノロジーの活用を実践する情報マスターがビジョンパークの運営スタッフであり、法人理事会は弁護士、柔道家・企業家、精神科医等は半数が当事者であり当事者の意見を反映させたプロジェクトの運営を可能としている。

36

18

優位性

神戸アイセンター構想は、最先端医療であるiPS細胞による再生医療を臨床医療、基礎研究を行う施設である。

医療特区に立地する市営病院であるため単一施設という高いアクセス性を確立して、臨床医療、基礎研究、情報支援にくわえて、製品や知財開発等も含めたこれまでの医療施設とは一線を画した協業プロジェクトを可能とする構造的利点を有している。

37

理事メンバー

代表理事 三宅 養三 (眼科医)

元名古屋大学眼科学教室教授

理事 高橋政代 (眼科医)

株式会社ビジョンケア 代表取締役社長

網膜再生医療研究開発プロジェクト 客員主管研究員

神戸アイセンター病院 非常勤医師

京都大学大学院 医学研究科 連携大学院講座 客員教授

京都大学 iPS細胞研究所 アドバイザー

理事 栗本康夫 (眼科医)

神戸アイセンター病院 院長

理化学研究所 網膜再生医療研究開発プロジェクト客員研究員

京都大学医学部 臨床教授

神戸大学医学部 臨床教授

理事 仲泊 聡 (眼科医)

神戸iクリニック院長

神戸アイセンター病院 非常勤医師

立命館大学 客員教授

東京慈恵会医科大学 客員教授

株式会社ビジョンケア

理事 大胡田誠 (弁護士・視覚障害者)

弁護士法人つくし総合法律事務所 東京事務所所属

理事 初瀬勇輔 (アスリート・視覚障害者)

株式会社ユニバーサルスタイル 代表取締役

NPO法人日本視覚障害者柔道連盟 理事

一般社団法人全日本テコンドー協会 理事

一般社団法人日本パラリンピアンズ協会 理事

理事 三宅 琢 (産業医、眼科医、コンサルタント)

東京大学 未来ビジョン研究センター 客員研究員

東京大学 先端科学技術研究センター 客員研究員

東京医科大学 眼科学教室 兼任助教

産業医科大学 作業関連疾患予防学 訪問研究員

一般社団法人産業医ラウンジ 理事長

理事 福岡 将太 (精神科医・視覚障害者)

美咲すずらんクリニック 副院長

理事 白根 雅子 (眼科医)

公益社団法人日本眼科医会 会長

理事 若宮 正子

NPOブロードバンドスクール協会 理事、メロウ倶楽部 副会長、

熱中病予防協会。エクセルアートの創始者。

理事 竹中 ナミ

社会福祉法人プロップ・ステーション 理事長

「チャレンジを納税者にできる日本」をスローガンに、95

年よりチャレンジ・ジャパン・フォーラム (CJF) 国際

会議を主宰。

理事 原田 敦史

全国視覚障害者情報提供施設 理事

きんきビジョンサポート 事務局長

社会福祉士・歩行訓練士

顧問 金子 裕 (コンサルタント)

株式会社Life Design Application 代表取締役

一般社団法人Artrates 代表理事

日本財団ボランティアサポートセンターアドバイザー

38